

くす稚苗のつゝ来井に就て

- I くす稚苗の生育と肥料要素との関係に就て
- II くす稚苗の生育とPH値との関係に就て

日本専売公社しよら試験場

西野 勲

北之園陽館

肥料養分がくすの生育並びに含脂油量に如何なる影響を与えるかを試験する爲にくす稚苗の水耕を試みて居るので現在迄に得た2,3の結果に就いて取纏めたものである。

(1) P, Nのくす稚苗の肥大生長に及ぼす影響が大であり, (a) K, Pは肥大生長に及ぼす影響が比較的少く, *

(2) 無N区, 無K区, 無P区は葉緑共に黄緑を乃至黄白色を呈し, N, K, Pの葉緑素の生成に及ぼす影響が顕著であると思われる。

(3) 気孔の数, 大きさは無N区, 無P区が最も少くそして小い。又油細胞数に就いても無N区最も少く油細胞の大きさに就いても同様に無N区最も少く, N, Pの植物生理に及ぼす影響が極めて大きいものと思われる。

(4) PH 2.0の強酸性よりPH 10.0に到る強アルカリ性の培養液中にも生育し得, PH 7.0即ち中性を示す区が生育状況や、勝り、酸性及びアルカリ性を増すに従い漸次劣る傾向が伺われる。

(5) 酸性を示す区とアルカリ性を示す区に於ては顕著なる差異は認められぬが、酸性を示す区がやゝ生育勝るかに思われる。

* 「N, Pの上長生長に及ぼす影響が大でありK, Mg, Caは上長生長に及ぼす影響比較的少く」

根芽によるクスの更新試験

日本専売公社しよら試験場 森太三郎 和田 功

本研究は製糖用原料としてのクス伐採跡に支那の先端を残存せしめてこれより発生する根芽によって更新を図る目的を以て行つて居る。

供試林分は(A)鹿児島市坂元町(B)鹿児島縣姶良郡重富村のしよら試験場試験林を使用した。供試面積約1ha。供試本数約490本。樹令は20~50年生である。

(1) 伐採季節及び鬱閉度別の試験

(A)に於て実施したものは秋(昭23.10)、春(昭24.3)季処理のものは皆伐区に於て母樹に対する根芽の発生割合は夫々50%及び52.6%で良好であるが、夏(昭23.8)季区では強烈な日射による地中水分の欠乏が影響した爲み50%区が56%を示して他の鬱閉度区と比較して良好な成績を得ている。

(B) 林地の分では昭26.6 処理の分では50%区が86%の萌芽割合を示して最も良好であ